



### 殿屋敷遺跡周辺の遺跡

殿屋敷遺跡の周辺には、八木城跡をはじめ、八木氏・別所氏にかかわる遺跡が存在します。

八木城跡は本丸に高さ8mを超える石垣をもち、八木氏に代わって城主となった別所氏により、石垣を持つ城へと改修されました。

御里遺跡は主に別所氏の城主館であったと考えられる遺跡です。城主の館は16世紀後半に殿屋敷から御里へと移されました。

### 南東から殿屋敷遺跡を望む

殿屋敷遺跡は八木川北側の、南へ緩やかに傾斜する段丘上に立地します。左の写真手前の方形の区画が遺跡の中心である城主館の範囲です。

今滝寺川を挟み、西側には八木城があり、国道9号線の南側、現在の八木地区の集落は城下町でした。

山陰道を中心街路としてその両側に家々が並ぶ地割りは、城下町の名残と考えています。

### 堀跡から出土した木製品

西堀・南堀の自然堆積層からは多くの木製品が出土しました。堀跡の下半部は、埋没してからも地下水が豊富にあり、木製品が良好に残っていました。漆器は黒漆を下地に赤漆で模様が描かれています。板状木製品は曲物や折敷の部材とみられます。下駄はいくつか形状の違うものが出土しました。木簡は「三界萬靈十方至聖」と書かれています。広く世の中の死者を供養するために用いられたものと考えています。

①掘立柱建物



②北堀の状況



③重ねて埋められた土器



④西堀の形状 (堀の断面、南から)



⑤西端部の石垣



⑥中央付近の石垣



⑦東端付近の石垣



【発掘調査の概要】

今回の発掘調査では、館を囲む堀の南西部と南堀に伴う石垣を再確認し、堀や石垣の構造を明らかにすることを目的としました。

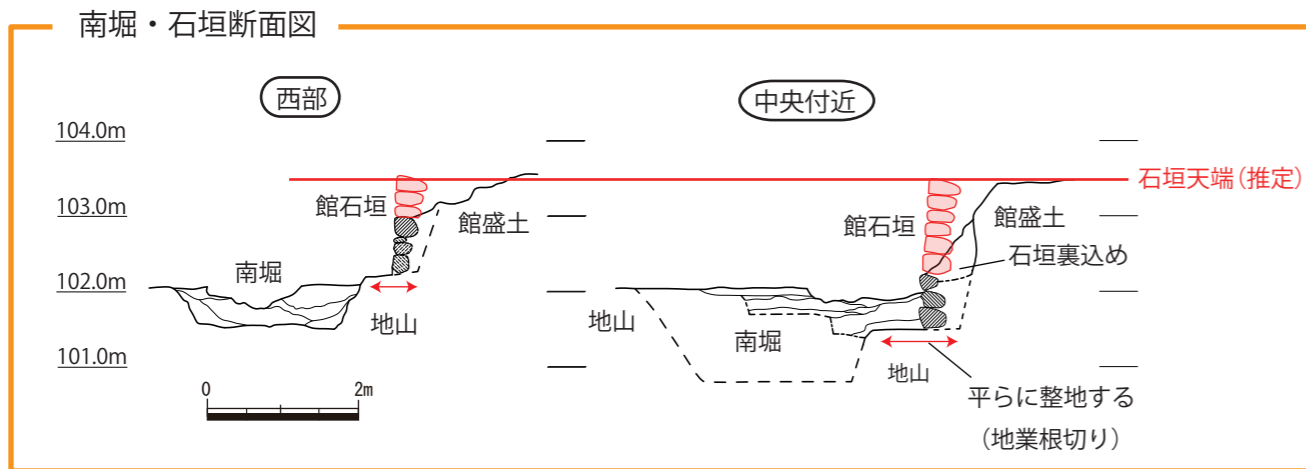
南西部の堀と石垣

堀の南西部では、南堀が幅 2.5m、西堀が幅 2.7～3.7m です。深さは地点により異なりますが、南堀は深さ 0.6m、西堀は深さ 0.6～1.5m で、堀底の高さが標高 101.5m と一定しています。北堀が最大で幅約 6m、深さ 1.8～2.5m であることに對し、比較的規模は小さくなっています。南西部が石垣とセットで防御することや、付近に出入口に伴う橋や門などの施設を推測しています。

堀は断面のかたちが台形を逆さにした形状の「箱堀」です。堀底は平らで、45 度以上の角度で立ち上がり、梯子が無いと登ることが困難な傾斜になっています。堀は現在では完全に埋まっていますが、堀の埋没状況を見ると下部は自然堆積で、上部は人為的に埋め戻されていることがわかります。下部の自然堆積の中には、多くの木製品が含まれています。

石垣は南堀に沿って、堀から 30 cm 程度の間隔（犬走り）を空けて積んでいます。石垣は最大 60 cm 程度の自然石や粗く割った石を横目地が通るように横長に積み上げたもので、勾配はほとんどなく、直線的に立ち上がります。南西部では最大で高さ 80 cm 程度まで残っています。石垣を積む部分は硬く締まった地山であり、石垣を安定して積むために、地面を削って平らに整地する「地業根切り」を行っています。

石垣は令和元年度の調査により、南堀に沿って全面に構築されていることが明らかになりました。また、裏込め土の残存状況から石垣は少なくとも高さ 1.5m 以上であり、背後の地山や館の盛土の状況から、石垣の天端（上端）は標高 103.5m 付近で、高さは最大で 2m 程度であったと推測しています。



【おわりに】

今回の発掘調査成果では、西堀と南堀を部分的に掘り上げて、堀と石垣で防御する八木城主八木氏の館の姿がよりイメージできるようになりました。殿屋敷遺跡の石垣は、豊臣大名である別所氏が築いた八木城の石垣と比べて古い特徴を持っています。堀で囲まれた城主館で、さらに堀に伴う石垣を持つ例は、非常に珍しく、貴重な事例です。

殿屋敷遺跡は平成 27 年度から史跡整備を開始し、およそ半分まで整備が進んでいます。整備に当たっては、盛土により館の形状を示し、堀や石垣を表示します。地域の歴史に親しむ場として、また、地域活性化の拠点となるよう整備を進めていきます。史跡整備への一層のご協力をお願いします。

令和 2 年度  
殿屋敷遺跡現地説明会資料

2020(令和 2)年 11 月 22 日

養父市教育委員会 社会教育課

〒667-0198 兵庫県養父市広谷 250-1

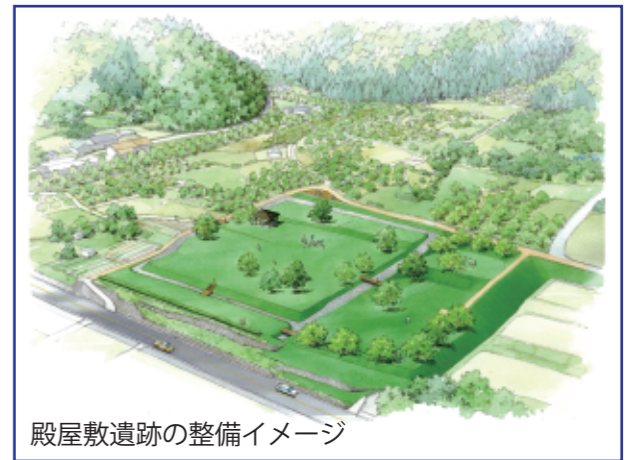
TEL : 079-664-1628 FAX : 079-664-1147

# 令和 2 年度 殿屋敷遺跡発掘調査現地説明会資料 ～八木城主館を囲む堀と石垣～

殿屋敷遺跡は、周囲に堀を巡らした八木城主八木氏の館跡です。八木地域は鎌倉時代から戦国期、天正 8 年（1580）まで活躍した八木氏の本拠地です。八木氏は但馬守護の山名宗全に属し、山名四天王の一人に数えられています。

殿屋敷遺跡の北西側にみえる山上には、八木氏（のちに別所氏）の城である八木城跡と土城跡があります。殿屋敷遺跡はこれらの城跡とともに平成 9 年 3 月 6 日に国指定史跡となりました。

殿屋敷遺跡では、平成 27 年度から歴史公園として整備を進めています。整備工事を進めるにあたり、遺跡の内容を明らかにし、整備方法を検討するために、発掘調査を実施しており、令和 2 年度は館の中心部を取り囲む方形（四角形）の堀の南西部で調査を行なっています。今回の調査は、堀と石垣の整備のため、堀と石垣の形状や構造、規模等を明らかにすることを目的として実施したものです。



殿屋敷遺跡の整備イメージ



西堀・南堀のコーナー一部分と石垣の状況（堀は埋まっている、後方は整備した建物）